

# 台風6号の接近に伴う農作物等の管理対策について

令和8年6月1日

福井県農業総合指導推進会議

## Ⅰ 共通事項

### 【用排水等の見回り注意】

- ・豪雨・強風の中、ほ場の見回りなどを行うと、河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の危険があるので、大雨や強風が止むまで控える。
- ・大雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・降雨により、ほ場の畦畔や法面が崩壊しやすくなるので嚴重に注意する。
- ・農作業中の熱中症対策に留意する。

## <台風接近前の対応>

### 【ほ場の排水対策】

- ・大雨により、ほ場が浸水、冠水する恐れがあることから、排水溝を手直しする。  
特にこれまで冠水や浸水したことのあるほ場は、重点的に排水対策を実施する。

### 【園芸施設等】

- ・強風に備え、フィルムや天窓等で破損している箇所がある場合は早急に修繕する。
- ・フィルムの取付金具やハウスバンドを点検し、緩んでいる場合は締め直す。特に、外側に遮光資材を展張している場合はしっかり固定し直す。
- ・ハウスの地際部（基礎部）の地盤が浅くなっている場合は埋め戻すか土のうで固定する。またパイプが錆びて破損している場合は、直管パイプや木杭等で補強する。  
（新設ハウスではアンカーを増設しておく。）
- ・周囲に防風ネット等が設置してある場合は、ネットが飛ばされたりしないように点検、補修を行う。
- ・施設の周辺にある風で飛ばされる可能性のあるものは片づけるか、固定しておく。
- ・風が強くなってきたら、妻窓、天窓等破損しやすい箇所から順に閉める。
- ・フェーン現象で日照があり外気温が高くなる場合は、風上側の開口部を閉め、風下側を解放してハウス内の温度上昇を防ぐ。
- ・台風直撃による暴風が予想される場合は、開口部からハウス内に風が吹き込み破損する恐れがあるので、ハウスを密閉する。
- ・換気扇がある場合はハウスを密閉し、換気扇を稼働させて内部を負圧にしておく。
- ・風速が施設の耐風強度を超えると予想される場合は、骨組み（施設本体）を守るため事前に被覆資材（ビニール）を切り払うことも検討する。

#### <台風通過後の対応>

- ・ほ場や施設が浸水した場合は、溝を切ったり、排水ポンプで強制排出する等、速やかに排水対策を行い、24時間以上湛水状態にならないようにする。(根部を守る)
- ・茎葉が損傷した場合は、出来る限り早急(可能なら台風が通過した直後)に殺菌剤を散布し、傷口からの細菌病等の感染を阻止する。
- ・ポリマルチをしている畝が冠水した場合は、マルチを除去したり、畝肩の部分をめくり上げたりして土壌水分を低下させる。
- ・強風が収まったら速やかにハウスの換気を行い、適切な温湿度管理に努める。
- ・施設や設備等の点検を行い、補修を行うなど現状回復を図る。

## 2 水稻

#### <台風接近前の対応>

- ・できるだけ深水にして稲株への風の影響を緩和する。薬剤の流亡を避けるため、通過前の薬剤の散布は見合わせる。

#### <台風通過後の対応>

- ・台風通過後は浅水管理に移行する。
- ・降雨直前に除草剤を散布していた場合、成分が流亡し効果が低下することが懸念されるので、雑草の葉令を確認し中期除草剤等で対応する。

## 3 大麦

#### <台風接近前の対応>

- ・登熟不良を防ぎ、刈り取り時の圃場条件を良くするために、圃場の排水に努める。
- ・水路への落とし口から円滑に排水されていることを確認し、水がよく流れ出していない場合や排水溝に水が停滞している場合は、水の流れを阻害している部分を探して改善する。(溝の崩れや詰まりの除去など)
- ・隣接水田からの浸水にも注意し、漏水防止と排水徹底を図る。

#### <台風通過後の対応>

- ・倒伏が激しい圃場は品質低下の恐れがあるので、別刈り・別仕分けして、健全な麦と混ぜないようにする。

## 4 野菜

#### <台風接近前の対応>

- ・圃場周囲に防風ネットを設置し、ネットの弛みや支柱の固定をする。
- ・圃場周囲や内部の排水溝の清掃、掘り直しなど排水対策を徹底する。

#### <台風通過後の対応>

- ・冠水、浸水した場合は、早期に強制排水を行う。

- ・露地野菜では、土砂のはね上がりや茎葉の傷み、土壌水分過多により病害の多発が懸念されるので、予防的に薬剤による防除を徹底する。
- ・冠水等により汚泥が茎葉に付着した場合は、付着した汚泥が乾かないうちに洗い流す。
- ・肥料の流亡等により草勢の低下が見られる場合は、追肥や葉面散布剤の散布を行う。
- ・土壌表面が固くなっている場合は畦表面の中耕を行う。

## 5 果樹

### <台風接近前の対応>

- ・収穫間近のウメでは、強風による落下防止のため、主枝・垂主枝などの重要な枝を下から支柱で支える。
- ・幼木や根の浅い樹種は、強風による倒木を防ぐためにつっかい棒をあてがう。
- ・ナシ等の棚栽培では風による棚面の動揺を防ぐために、棚のあおり止め等を行う。

### <台風通過後の対応>

- ・降水量が多く、圃場に長期間滞水する場合は根の活力低下、枯死を防ぐため、側溝のゴミ、泥の除去、除草を行うなどして水の流れをよくしたり、浅い溝を掘って表面水を園外に流したりする。
- ・倒木した場合は速やかに起こし、支柱などにくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。
- ・折れた場合は切り戻し癒合剤を塗布する。雨による病気の蔓延や、風による樹体の傷口から病気の感染の恐れがあるので殺菌剤を散布する。

## 6 花き

### <台風接近前の対応>

- ・畝の両端の親支柱や中間支柱はしっかり立て直し、中間にタルキグイを入れて補強する。
- ・畝の横風に対しては1、2本おきに隣り合わせの畝の中間支柱をハウスバンドなどで連結して固定する。
- ・キク等でフラワーネットを使用している場合は、ネットを適正な高さ（一般的に草丈の半分の高さ）に調整し、弛みをなくす。

### <台風通過後の対応>

- ・強風による枝葉の損傷部分からの病害侵入、蔓延を防止するため、速やかに薬剤散布を行う。とくに下記病害に注意する。

キク……黒斑病、褐斑病、白さび病

- ・強風により傾いたキク等の作物や、支柱の立て直しを速やかに行う。

## 7 畜産

### <台風接近前の対応>

- ・畜舎に雨風が吹き込まないように、戸、窓をしっかりとめておくとともに、強風で破損しないように補強しておく。
- ・飼料作物の作付け圃場では、排水対策を徹底する。

### <台風通過後の対応>

- ・牧草の収穫作業が遅れている所は、天候の回復を待って早急に実施する。ただし、刈り遅れの牧草は栄養価の低下や変敗を起こしていると思われるので、給与前に飼料分析を行い、給与には充分注意する。